

「東京シューレ子供とつくる 20 年の物語」を読んで

学籍番号:c1200423

氏名:大石一輝

1985年に開設したフリースクールである「東京シューレ」。その20年の歩みを振り返り語り。子どもとともにつくるフリースクールの歴史や社会の不登校の価値観を変えてきた歴史を伝える一冊です。

この本の著者である奥地圭子さんは1941年東京生まれ、広島育ちで。横浜国立大学卒業後に小学校教師を務めていたが。我が子の不登校に深く学んで、フリースクール「東京シューレ」を開設し現理事長となった。不登校をめぐる言論・活動を牽引しつづけて普通教育機会確保法の成立に主要な役割を果たす人物です。子どもと親、市民が一緒になって創り、育て、迎えた20年間でフリースクールはどのように創り上げられたのか。その詳細な波乱万丈の歴史が分かります。市民がつくる新しい教育のカタチが、いま、おもしろいフリースクールの「草分け」と言われてきた1985年に始まった「東京シューレ」。80年代の学校に行かない子どもの激増を背景に、新しい「学校に行かない子どもの居場所・学び場」を開設。当初は「うなぎの寝床」と言われるくらいのアパートの1室から始まり、そこで、さまざまな「物語」が展開されていきます。その後、通う子ども達があだんだんと増えていき、ビルを丸々貸しきるほどまでに活動も盛んになっていきます。最初はとも学びの場とは言えるほどではなく、学びの時間に子どもたちが集まる場となっていたが、「フリースクール」という学び・育ちの場として、様々な活動が展開されていくことになります。通うだけじゃない、家で育つあり方や不登校の子どもに関係する「事件」への取り組みや、国会への活動、ログハウスの建設、海外の大旅行、他のフリースクールなどのつながりが増えていき。ただ居場所が広がっただけではなく、そこにはたくさんの人たちとの出会いやつながり発見があり、多くの子どもたちへのいい刺激となっていきます。それらのエピソードをふんだんに盛り込んだドキュメンタリー。東京シューレの年表や写真も掲載、「フリースクール」が分かる1冊でした。